

## 令和4年度訪問看護ステーション連絡協議会九州ブロック会議参加報告書

参加者：南里玲子 片桐都茂子 浦方智恵

日時：令和4年12月9日（金）14：00～15：30

形式：オンライン会議

### 次第

#### 1、開会宣言

熊本県訪問看護ステーション連絡協議会 副会長 永野 智子氏

#### 2、挨拶

同協議会会長 金澤 知徳氏

#### 3、意見交換

- (1) コロナ禍3年を迎えて、各県の連絡協議会の活動の状況報告（会員数の状況、活動実施の中での工夫や問題等）について

→回答内容参照

（補足）集合研修などはここ3年行っていないWebやオンラインの研修を行っているペアステーションとしての訪問看護の方法は進んできている（大分県）。連絡協議会で災害シミュレーションを行っていたがコロナを盾に‘休憩’してしまった印象がある。コロナ禍でも毎年繰り返し実施していかなくてはならないと感じている（熊本県）。ICTを用いて情報交換が行えた。コロナの副産物としては情報共有ツールを会員が使ってくれるようになった（鹿児島県）。

- (2) 事業所BCP作成に向けての支援状況と地域（九州）BCPの考え方について

→回答内容参照

（補足）県内はもとより県外からの助けが災害時にはあってよかった。「県内」だけではなく「隣県」の存在、関係性が重要である。そのためには日ごろからの関係性づくりも必要である。災害時の「隣県」としての役割は具体的には物資の輸送などである。支援物資が各地から届けられると災害各地の混乱を招くために一旦一か所で物資を集約する。その後必要な物資を各地へ配布するが道路が寸断されている場合物資が届きにくい。そのため県をまたいだ対応の必要性も出てくる。また災害時はその災害の種類や進行状況、季節などによっても必要な支援の方法も異なる。タイムリーに必要な支援を行うために災害時、緊急での連絡協議会九州ブロック会議を開催するのも一つの方法である。

- (3) 今後の九州ブロック会議開催について

→回答内容参照

（補足）次回主催：宮崎県担当予定。3月、6月は全国訪問看護事業協会の会議開催の予定である為開催時期の検討必要。会議開催方法（ハイブリットなど）については主催県での検討をお願いします。

#### 4、その他・情報交換

##### (1) ①九州ブロック会議の継続について

##### ②災害時の応援派遣について

##### ③ 訪問看護総合支援センター立ち上げについて

①、②についてはこれまでの回答、補足内容参照

③について：

- ・宮崎県、大分県：訪問看護総合支援センターの立ち上げ要望中。
- ・長崎県：サポートセンターはあり、人員確保、人材育成に携わってもらっている。
- ・大分県：継続的な資金調達方法について何かやっていることがあれば教えてほしい。
- ・佐賀県：人員や人材確保の事業は県からの委託でサポートセンターが担っている。  
県の窓口は長寿社会課である。佐賀県では、サポートセンターへの委託で新人訪問看護師育成プログラムを実施しており3年目となっている。

##### (2) 管理者の能力向上に関する取り組みについて

- ・熊本県：ブロック会を開き気軽に相談できるよう顔の見える関係づくりを行っている。  
5年未満の管理者を対象にマーケティングやマネジメントの研修を行ったり、アドバイザー派遣事業などを行っている。
- ・福岡県：アドバイザーシステムや研修システム、教育企画委員会などにより管理能力向上に努めている。
- ・宮崎県：危機管理やマネジメントの研修を行っている。
- ・鹿児島県：新人の管理者が疲弊している事業所もある為直接話を聞きながらマンツーマンや対面で指導していく。
- ・大分県：県の補助や委託事業として訪問看護管理者研修を行っている。アドバイザー派遣事業所、訪問看護管理者認定制度などがあればよいのではないかと考える。
- ・長崎県：数年前に新人、中堅、ベテランの管理者交流会を行った。他のステーションへの実習なども実施した。

(その他質問事項：佐賀県より) コロナの抗原検査キットはどのように調達しているか。

- ・熊本県：週に2回行政から配布あり。
- ・福岡県：週に2回人数分の2倍量が配布され検査の実施報告が必要である。
- ・宮崎県：箱単位での配布あり (1箱5回分×30箱)
- ・鹿児島県：補助金で購入。

#### 5、閉会

以上

文責：書記：浦方智恵

### 3. 意見交換

提案事項	
(1) コロナ禍3年を迎えて、各県の連絡協議会の活動の状況報告（会員数の状況、活動実施の中での工夫や問題等）について（熊本県）	
各県からの回答	
宮崎	<p>1. 会員数 令和4年12月1日現在、93施設。</p> <p>2. 活動状況について 令和4年6月29日 役員会 令和4年8月20日 令和4年度総会・研修会（Web開催） 〔研修内容〕 ・BCP策定について県行政からの説明 ・訪問看護ステーションにおける業務継続計画（BCP）について 令和5年1月21日 令和4年度管理者向け研修会（予定）</p> <p>3. 広報活動 広報活動に役立てていただくため、宮崎県訪問看護ステーション連絡協議会のオリジナルのマスクを作製し、会員ステーションに配布。</p> <p>・コロナ禍により、総会及び研修会はWebで開催している。 参集ではないため会員相互の交流はしにくい、遠方の会員は参加がしやすくなった。</p> <p>・県医師会主催の研修会や製薬会社主催の日常業務に役立つセミナーなどは、会員メーリングリストにより積極的に周知している。</p>
鹿児島	<p>状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・集合研修及び情報共有が難しかった</li><li>・ICT活用によるステーション間における情報共有</li><li>・各ブロックもICT活用が活発になっている</li></ul> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・HP作成による情報発信及び情報共有</li><li>・広報誌「ぬくもり」発行</li><li>・県政広報番組（MBC南日本放送「ふるさとかごしま」） 住み慣れた場所で生活を続けるために ～日常療養支援の取り組み～</li><li>・訪問看護人材確保検討委員会委員 県内訪問看護師交流会 支部（鹿児島市・南薩）意見交換会参加</li><li>・管理者研修（ACP、意思決定、医療的ケア児について）</li><li>・研究発表（ハイブリッド形式にて）</li><li>・講師派遣（新任管理者研修、小児在宅ケア）</li></ul> <p>以上を毎年実施。状況により集合かハイブリッドで対応</p>

勉強会  
新型コロナ研修

- 大分** 通常総会、理事会等の定例会議は書面会議やオンライン開催とし、開催回数等例年と変わらず、開催した。  
研修会は録画後、Web配信とした。  
県内支部活動、委員会活動は会議開催数が若干減少したが、予算通りに活動した。
- 沖縄** ① 会員数の増減なし  
② 8地区にて活動する計画だが、2つの離島においては、コロナ感染症の感染状況に合わせて活動しており、精神科グループもWebで事例検討会等を開催している。その他の地区については、ほとんど活動出来ていない。
- 長崎** ・2022年11月現在、会員数109 ST。新規に立ち上げた事業所には、連絡協議会への加入を呼びかけているが、入会を見合わせている事業所もある。  
離島の地域の在宅医療の充実を図るため、基幹病院に訪問看護STが新設し役割を果たしている。  
・コロナ禍ということで、総会、役員会、研修会はハイブリッド形式にて実施している。  
・管理者同士が実際に対面する機会が少なくなっているため、各ブロックでオンラインブロック会議を実施し、顔の見える関係作りを行い、相談や情報交換が容易にできるようにしている。  
・事務局より、コロナに関する資料を適宜送付し、情報共有を行っている。
- 福岡** 平成7年の設立当初より、各地域の中核を担っていただいている訪問看護事業所に継続的に本協議会に加入いただいている。近年の会員数はほぼ横ばいで、現在の会員事業所数は、239事業所である。  
本協議会では、令和3年度に「入会案内チラシ」を改訂した。総会や研修会の案内と併せて本チラシを非会員事業所へ送付し、入会促進及び組織率の向上に繋げていきたいと考えている。
- 佐賀** 会員数については、近年、活動を活性化させていることもあり、増加傾向にある。令和4年11月時点で63施設となっており、加入率は約57%である。  
活動については、コロナの影響を受け、オンライン開催やオンライン併用開催も増加したが、委員会、研修会、意見交換会は例年通りの頻度で開催している。感染拡大防止のために、グループワーク等を行う研修が出来ず、会員相互の連携強化が図れていない点が課題ではあるが、今年度から地区支部活動を実施したため、各地域レベルでのステーション間の横のつながりは強まっている。
- 熊本** 熊本県では、コロナ禍の2年間は役員と7ブロックのブロック長・委員でZOOM会議を開催した。昨年は、ハイブリットで県全体の管理者会議や研修会を開催出来た。しかし、3年間に新規開設した訪問看護事業所は70近くあり、連絡協議会の活動を紹介する機会がなく、会員率が75%位へ低下した。更に管理

者の交代の事業所も多く、災害マニュアルの SOS やペアステーションの仕組みを知らない方が増え、オリエンテーション研修会を ZOOM で開催し、連絡協議会の管理者会の仕組みや災害マニュアル等の説明を実施した。今後は、毎年、年度始めに実施することが必要と感じている。

---

《MEMO》

### 3. 意見交換

#### 提案事項

#### (2) 事業所 BCP 作成に向けての支援状況と地域（九州）BCP の考え方について（熊本県）

#### 各県からの回答

宮 崎	令和4年度は、BCP 作成に向けての研修会を2回に分けて行う。 BCP については、今後も継続的に研修を行っていく予定。
鹿児島	・研修実施 「BCP 作成する過程こそ意味がある」令和4年10月22日 講師：鹿児島県いちき串木野市 株式会社至誠舎代表取締役永原真一 完全オンライン方式 ⇒研修後に各地区でグループワークを実施 ⇒青写真を作り各事業所で話し合いをしている ⇒鹿児島は離島があるので、どのように作り上げていくかが今後の課題
大 分	今年度、研修会を開催予定している
沖 縄	事業所における BCP 作成については、約 30%の事業所が作成し、作成中を含めると 50%以上である。 地域（九州）における BCP については、各都道府県の防災対策が異なること、災害レベルにもよると思いますので、具体的な活動は考え難い。 沖縄県において、連絡協議会として活動するというより、非会員の事業所も含めて、訪問看護ステーションとしての活動となると思います。
長 崎	・外部講師に依頼して、BCP研修会を実施し、実際に各STで使えるような形でひな形を作成した。 ・県及び地域での連携をどう図るかが今後の課題と思われる
福 岡	令和3年度の本協議会総会の特別講演において、ケアプロ株式会社在宅医療事業部の金坂宇将部長と岡田理沙クオリティマネジメント部長より「訪問看護事業所における BCP」と題してご講演いただいた。 さらに、令和4年度より3カ年計画で、災害及び感染症発生時等の緊急時において、訪問看護ステーション間が連携して、在宅療養者が適切な訪問看護サービスを受け、療養生活を継続できる体制を構築することを目的に、県から委託を受け、「訪問看護ステーション連携強化事業」を実施しており、BCP 策定に関する全体研修や各地区において意見交換を行う等、令和6年の BCP 作成義務化までに県内の訪問看護事業所が BCP を作成できるよう支援を行っている。 災害や感染症発生時の緊急時は、現場の混乱を招かぬよう情報を一元化するため、連絡協議会主体ではなく県対策本部の指示に基づいて対応する。また、各県医師会から協力を要請された場合は、連絡協議会として協力する。
佐 賀	今年度県内中部地区で事業所 BCP 作成のための研修会を実施した。実際の作成まで実践する非常に効果的な研修であったため、対象を県全域に広げての同

様の研修会の開催も検討している。また、当初は本協議会で事業所BCPのひな形作成も検討していたが、地域の実状、特性が関わるため、難航している。他県の状況をお伺いし、参考にさせて頂きたい。

なお、地域（九州）BCPの作成については、必要であると考えているが、どういったものにしていくかは、九州各県で議論を重ねるべきだと考える。

熊 本

熊本は2回の災害にあい、自身の事業所のBCPも大事であり、個人事業所も多いので地域や協議会での支援も不可欠と実感した。

災害時、県連絡協議会として、自治体・看護協会・医師会・訪問看護事業協会と連携を図ることも重要ですが、人・物を動かす時に、隣接する県の連絡協議会からの支援も災害の経過の中では必要ではないかと思う。

---

《MEMO》

### 3. 意見交換

#### 提案事項

#### (3) 今後の九州ブロック会議開催について（熊本県）

#### 各県からの回答

宮 崎	九州在宅医療推進フォーラムと同日に開催しないのであれば、オンライン会議のほうが参加しやすい。
鹿児島	・年1回、今回のようにオンラインを含め開催いただきたい。
大 分	情報交換の場があるのは、ありがたいです。
沖 縄	特にありません。
長 崎	・コロナの状況にもよるが、今後もこのような会議の開催を継続できればと考える。
福 岡	今後も、他県の活動状況等について情報交換を行うために本会議の開催を希望する。また、会議のための移動時間等による日常業務への影響を最小限にするためにも、オンライン形式による開催をご検討いただきたい。
佐 賀	各県の活動状況を情報共有できる貴重な会議として、今後も継続を希望する。また、オンライン開催ではなく、顔を合わせての会議形態が理想であるため、九州在宅医療推進フォーラム時に現地での開催を希望する。
熊 本	九州在宅医療推進フォーラムの開催と合わせてブロック会議を開催してきたが、コロナ禍で中断。2年後からフォーラムも再開始されるようにはなったが、今回の様に年に1回、ZOOM会議での交流をおこなってもよいと感じている。

《MEMO》



#### 4. その他・情報交換

---

##### 提案事項

---

- (1) ①九州ブロック会議の継続について、②災害時の応援派遣について、③訪問看護総合支援センター立ち上げについて（鹿児島県）
- ① 年1回オンライン会議を含め開催してほしい
  - ② 地域内に応援をどのようにしていくのか。近隣の県からの派遣を考えていく必要がある
  - ③ 九州で立ち上がっている場所はどこがあるのか？  
どのような規模か？  
どのように運営しているのか？  
メリット・デメリットは？  
立ち上げのやり方は？  
等の情報交換をしたい
- 

《MEMO》

#### 4. その他・情報交換

---

##### 提案事項

---

##### (2) 管理者の能力の向上に関する取り組みについて（佐賀県）

訪問看護の質の確保及び経営の安定のためには、管理者能力が問われる。こういったことから、管理者の臨床能力及びマネジメント能力の向上は必要不可欠であり、管理者研修を充実させていく必要がある。本協議会では、管理者を対象とした経営マネジメント等を学ぶ研修については未だ開催出来ておらず、他県に比べて管理者の能力の向上に関する取り組みが弱いという課題がある。

今後の参考とさせて頂くため、各県ではどのような取り組みをされているかお伺いしたい。

---

《MEMO》